

○予算委員会で総理の限界あぶり出る

毎日、予算委員会が続いています。委員会での質問は、これから一日おきくらいで順番がまわってきます。経済や雇用の緊急対策を中心に、議論が進んでいます。道路の一般財源化が約束通りに実行されていないことや、消費税が無理やり導入されようとしていること、天下りや渡りを容認しようとする政府の骨抜き行革案など、多くの問題が浮き彫りになってきました。郵政民営化を否定するような発言で、総理の「ブレ」と「デタラメ」も益々快調です。

私は、中小企業の資金繰り対策や雇用問題に焦点をあて、政府の施策が本当に現場に反映されていないことや、今回の経済危機をテコに、日本の円を国際通貨に導く手当てをすること、米国債を円建てで受け入れることで、アメリカへの協力と同時に円安誘導ができるメリットなどをうたえています。

麻生政権の特徴は「中途半端と玉虫色」です。100年に一度の危機管理だとすれば、もっと思い切った政策の踏み込みと、自民党の中の族議員抵抗勢力を抑えきる力量を持たなければならないと思います。

○自然エネルギー固定価額買い取り制度

太陽光発電や風力発電の普及が本格的になってきそうです。政府与党も、設置にかかる費用に補助金を出そうと言っています。私たちは、本当に普及を促進するとすれば、補助金ではなく、ここで発電する電力の買い取り料金を、設置者が採算ベースに乗るレベルに法律で引き上げよう。その差額は、税金で補填するのではなく、電力料金にプールして、利用者に負担してもらうことにしようと考えています。同時に、製造コストが下がる技術革新に補助金を出そうと勉強しています。日本のエネルギー供給の10%台の自然エネルギーが達成できるまで頑張ろうということです。民主党の政策にもなりつつあります。

○消費税論議は争点にはならない

私の管轄する財務金融委員会に、三年後の消費税

アップに向かって準備を開始しなさいとする内容を附則に盛り込んだ法案が、政府から提出されました。自民党の中には、消費税を議論しない民主党は無責任だから、消費税を選挙の争点にしよう、と元気のいいことを言い出している議員もいます。

実は、私たち民主党も、時を見て消費税を増税することが必要だと言う議論は、しなければならないことだと思っています。しかし、本当に国民に理解してもらうには、次の三つの点で政府や自民党の言い出している内容では問題だと思っています。

一つは、タイミング。この経済危機の真っ只中で増税を言うことは、間違っている。二つ目は、増税を言い出す政権は、国民に信頼を得ていることが大前提。今の政権がどこまで税金の無駄遣いの根絶や行政改革に本腰を入れているかと言えば、先日から天下り、わたり、公益法人や特別会計の議論を見ても、まったく落第です。第三に、税金の使い道をはっきりさせること。政府の言う「金が足りないから増税する」では納できません。私たちは、年金と医療の制度改革で、持続できる安心した制度を作る原資にしたいと言っています。

○東京での発見

東京生活では新しい発見もあります。最初は、いろいろな違いに戸惑いました。肉屋さんでは、豚肉が「にく」で、左側に堂々と並べられて、それから牛肉。「うどん」はうどん屋さんにあるのではなく、蕎麦屋さんの片隅メニュー。エスカレーターで歩かずに立ち止まるときは左側にならぶ(大阪は右、三重は?)。魚屋に、たら、アンコウ、ハタハタなど、これまであまり見かけたことのなかった魚が東北弁と一緒に北の国からやってくる。最近では、同僚に教えてもらった北海道の「ラムしゃぶ」(羊のしゃぶしゃぶ)に入れ込んでいます。

○お知らせ

2月15日(日) 午前11時半から、鈴鹿サーキット「グランプリホール」で恒例の後援会新年会を開きます。どうぞお誘いあわせで、ご参加ください。